

『キリストが復活された証拠』

'21/04/04(イースター)

聖書箇所: 新約聖書から随所

皆さん、お早うございます！そして、今日は、イースターおめでとうございます！皆さんも、よくご存知のように、今日は、1年に1度、イエス・キリストの復活を記念するイースター、つまり、「復活祭」であります。今から約2000年前のちょうど今頃の時期に、イエス様は、私たちに「救いの道」を用意するため、あの忌まわしい十字架にかかって…、そして、その死からよみがえって下さいました。今日は、そのイースターを記念して…、もう1度、イエス様の復活というものが、果たして、私たちが信じるに値するものだったのかどうか？本当に、事実だったのかどうか？ということ、聖書のみことばから、皆さんと一緒に検証していきたく思います。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、イエス様の復活という事実に関して、より一層の確信を持つことができ…、そして、その神様の前に、本当に価値ある人生を送っていただくことを願うものであります。

命題: 本当に、イエス・キリストは十字架の死から復活したのか？

まずは、今日のテーマとも言うべき、聖書のみことばを一緒に見ていきたく思いますので、どうぞ、I コリント 15:1-5 をご覧くださいませでしょうか？初めに、こちらで読ませていただきます。

- 1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。
- 2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音の**ことばをしっかりと保てれば**、この福音によって救われるのです。
- 3 私があなたがたに最もたいせつな**こととして伝えたのは、私も受けたことであり、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、**
- 4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと、
- 5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

今読んだみことばで、使徒パウロは、「福音」のメッセージとして、イエス・キリストの十字架と復活とを挙げて…、それらが最も大切なことである！と教えてくれています。(もちろん、何故、イエス様が十字架にかからなければいけなかったのか？という理由も、それと同様に大切なことなのですが…) そうですね、この福音の言葉を、よく考えて、それをしっかりと保てれば、あなたは救われる！ということをお教えています。…と言うことは、逆に、そのことを言い換えますと、「もしも、私たちが、この教えをしっかりと理解できていないと…、あなたは救われませんよ！」ということでもあるのです。そこで、今日は、幾つかのみことばから、もう1度、イエス様の復活ということに焦点を当てて、皆さんと一緒に、イエス様の復活ということを考えていきたく思います。

I・空っぽの墓が意味すること！(ヨハネ 20:1-10)

そこで、まず、最初に見ていきたいことは、イエス様の遺体を葬ったはずの墓が、「空っぽ」であった！ということをお考えしていきたいです。そのために見ていきたい、聖書のみことばは、ヨハネ 20 章になりますので、どうぞ、もしできましたら、今度は、ヨハネ 20:1-10 をお開きください。

- 1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓にきた。そして、墓から石が取りのけてあるを見た。
- 2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれ

かが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」

- 3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。
- 4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。
- 5 そして、からだがかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中に入らなかった。
- 6 シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓に入り、亜麻布が置いてあって、
- 7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。
- 8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。
- 9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。
- 10 それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った。

●当初、12弟子たちは、イエス様の復活を期待していなかった！

イエス・キリストが十字架にかけられた、ということに疑う人たちは、ほとんど居ません。しかし、問題となるのは、果たして、その後、イエス様が復活されたのか？本当に生き返ったのか？という問題であります。正直、私が、これまでに伝道してきた方々の中には、「そんなものは、イエス・キリストの弟子たちが作り上げた妄想(=嘘)にしか過ぎない！」という人たちが多数おられました。正直、私自身も、教会に来る前は、まあ、そんなことを真剣に考えたことも無かったですが…、何となく、イエス様が復活されたという話は、単なる、キリスト教の伝説か言い伝えの類であって…、事実のはずがない！と思っていたように思います。

しかし、聖書のみことばは、そうは教えません！例えば、今読んだみことばがそうです。イエス様が十字架にかけられて3日目となる日曜日の朝、イエス様が葬られたはずの墓が空っぽになっていることを、最初に見付けたのは12弟子たちではなく…、女たちでありました。そうですね！…皆さん、その理由をご存知ですか？…実は、イエス様の弟子たちは、イエス様が本当によみがえられるとは思っていなかったのです。実は、弟子たちは皆、イエス様から、そのことを予め、聞いていたにも関わらず、です。

つい先週の礼拝でも学んだように、イエス様の弟子たちは、リーダー格であったシモン・ペテロを始め、全員がイエス様のことを放つぽり出して、逃げ出してしまったような…、ある種、薄情な者たちでありました。…皆さんも、ご存知でしょ？弟子たちは、あの「最後の晩餐」の後、ペテロを始め、皆が口を揃えて、『たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません！』(マタイ 26:35)と言い切ったのです。そんな弟子たちが、その舌の根も乾かない内に、そのイエス様のことを見捨ててしまったのです…。そうでしょ？元々、弟子たちは皆、イエス様の復活など、本当には信じておりませんでした。

だから、どうぞ、皆さん、今読んだみことばのすぐ後、ヨハネ 20:19 をご覧ください。そこには、こうあります、『その日、すなわち週の初めの日の夕方のごであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」』って…。

⇒何度も言いますが、この時点で、弟子たちは皆、イエス様が復活されるなど、本当の意味においては、信じていませんでした。だから、彼らは、ユダヤ人たちを恐れて…、1つ所に集まっていたのです。…彼らが信じたのは、実際に、イエス様が復活されたという証拠を見て以降です。どうぞ、今先程読んだ、ヨハネ 20:7 をご覧ください。そこで、シモン・ペテロと恐らくヨハネとは、イエス様の遺体に巻かれていたはずの包帯が、『亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっている…』のを見た、とあります。

それで、彼らは、ある程度信じた？わけです。その後も…、復活されたイエス様のことを直接見る事ができなかったトマスなどは、イエス様が復活されたことをなかなか信じる事ができませんでした。でも、そんなトマスも、ヨハネ 20:26-29 にあるように、1週間後、イエス様が、そのトマスの前にも現われてくださって…、ようやく信じる事ができました。…つまり、それほど、12弟子たちの理解は鈍くて…、彼ら12弟子たちは、イエス様の復活ということに関して、疑い深かったのです！…ね、皆さん！

●イエス様に敵対していた者たちも、イエス様の 遺体 を提示できなかった！

このように、イエス様の弟子たちは皆…、誰も、イエス様が本当に復活されるとは夢にも思っておりませんでした。弟子たちは皆、イエス様が生き返ってくれることを期待して、何か幻を見たとか…、あるいは、嘘をついたとか…、そんな状況にあったわけではありません。むしろ、弟子たちは、現代で言うところの、ノンクリスチャンたちと同様、イエス様の復活を疑っていたような…、そんな者たちであったのです。そんな彼らが、復活されたイエス様に会ってから、大きく変えられました…。だから、弟子たちは皆、この後、声を大にして、イエス様の復活と福音のメッセージを大胆に語っていくわけです！「確かに、イエス様は復活された！自分たちを含めて、人間は皆、死んで終わりはしない！」って…。

しかし、そのような…、弟子たちの語ったメッセージは、それを信じようとしないう者たちにとっては、不都合な出来事でありました…。特に、イエス様のことを十字架に追いやった律法学者やパリサイ人たちが…、そしてまた、ローマ(帝国)からしてみたら…。そうですね？しかし、彼ら、イエス様に反目していた者たちは、誰一人、イエス様が復活していない！ということを実証できなかったのです。

それは、つまり、どういうことかと申しますと…、イエス様の死後、そのイエス様が復活されたということを、弟子たちは宣伝していたわけですから、それに対して反論したかったら、律法学者たちやローマ兵たちは、イエス様の遺体を持って来て…、それを見せたら…、イエス様の復活が偽りであることを簡単に証明できたのです。そうでしょ！…だって、この当時は、イエス様の十字架から、まだ何日かしか経っていませんでしたから…(当時は、土葬が一般的であった)。

でも、イエス様に反目していた律法学者やパリサイ人たちも…、あるいは、ローマの軍隊も…、誰も、イエス様の遺体を出してきて…、イエス様の復活を否定できる者はありませんでした。イエス様の遺体が無かったからです！…じゃあ、誰が、イエス様の遺体を持ち出したのでしょうか？弟子たちでしょうか？でも、もし、弟子たちが、イエス様の遺体を持ち出したのだとしたら…、弟子たちは、イエス様の復活がなかったことを知っているわけで…、そんな弟子たちが、果たして、何人も(12使徒全員と言って良い)殉教していくのでしょうか？「人は、嘘のために死ぬことはできない！」と、私は考えます。果たして、イエス様の弟子たちは、嘘をついて…、その嘘をついたまま、一瞬の内に変えられて…、殉教していったのでしょうか？…イエス様のことを信じておられない皆さんは、そのことについて、どうお考えになっておられるのでしょうか？

今、イエス様が葬られたとされるエルサレム、「ゴードンのカルバリ」と言われる場所に行きますと、そこには、ある看板があります。そこには、「HE IS NOT HERE- FOR HE IS RISEN」(彼はここには居られませんが、よみがえられたからです。)

聖書のみことばによれば、「死」というものは、あのアダムとエバが罪を犯した結果であり…、罪の報いである！ということをお話しています。…すべてを造られ、すべてを御支配しておられる、真の神が、そういったような死に繋がれていることなど有り得ないことです！…だから、イエス様は、約束通り、十字架の死からよみがえってくださったのです！…そういう意味におきまして、イエス様のよみがえりは、必ず、起こらないといけない…、必然的なものでありました…。

II・日曜 礼拝が広まった！(Iコリント 16:1-2)

次に、私たちが見ていきたい事柄は、「日曜日」の礼拝に関する事です。実は、聖書のみことばのどこを探してみても、「週の初めの日(=日曜日)に礼拝を持ちなさい！」というような命令は見つかる事ができません。…にも関わらず、聖書のみことばは、イエス様が復活されたという出来事を境に、日曜日の礼拝が広まっていったということをお話しています。そのことを教えるというよりも、象徴的なみことばとして、Iコリント 16:1-2 を選ばせていただきました。そこには、このように記されてあります。

- さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたように、あなたがたにもこう命じます。
- 私がそちらに行ってから献金を集めるようなことがないように、あなたがたはおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。

●それまで、ユダヤ人たちは 安息日 に礼拝を捧げていた！

まずは、皆さん、この当時のユダヤ人たちが皆、どういったような礼拝を捧げていたかを思い出してみてください。…福音書の中に、何度も出てきますように、この当時のユダヤ人たちは皆、週の7日目、つまり、今で言うところの土曜日を安息日として、その土曜日に礼拝を捧げていたわけですね。…それも、無茶苦茶、厳格に…。そうでしょ！

…と言いますのも、それこそが旧約聖書の教えであり…、真唯一の神様からの命令であったからです。例えば、あの有名な出エジプト記 20:8-11 には、こう記されてあります。『8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。10 しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。—あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も— 11 それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。』

⇒今読んだみことばにありましたように、かつて、ユダヤ人たちは皆、「7日目である土曜日」に礼拝を捧げておりました。今でも、イスラエルに行くと、多くのユダヤ人たちが安息日(金曜日の日没から土曜日の日没まで)の規定を厳格に守っています。彼らは、未だに、安息日には、ありとあらゆる“火”を起こそうとはしません…。だから、彼らは、ほんの小さな電気回路の火花さえも、「神の命令に反する！」と考えて、安息日には、エレベータのボタンも押さず…、冷蔵庫を開けても、安息日には明かりがつかない仕様のものを使い…、安息日用にある程度決められた食事を摂っています。実際に、彼らユダヤ人たちは、3000年以上に渡って、厳格なまでに、神のみことばを守っているのです。ユダヤ人たちの厳格さは、歴史的に見ても…、また、世界的に見ても、明らかです。そうですね？

●イエス様の 復活 以降、週の初めに礼拝を捧げるようになった！

しかし！ そんなユダヤ人たちが、イエス様の復活を機に、土曜日での礼拝を止めて、日曜日に礼拝を捧げるようになっていったのです。間違いなく、初代教会のメンバーには、かなりの比率で、ユダヤ人たちが存在しておりました。…にも関わらず、彼らは、7日目の土曜日ではなく…、イエス様が復活された週の初めである日曜日に礼拝を捧げるようになっていったのです！一体、どうしてでしょう？イエス様の復活が事実でなくて、どうして、そんなことが起こり得たのでしょうか？正直言って、そのことに関しては、誰も、その理由を、イエス様の復活以外から説明することができていない、というのが実情ではないのでしょうか？

今現在…、イエス・キリストの復活から約 2000 年経った今では、日曜礼拝の習慣が、世界各地に広まっています。今や、イエス・キリストの復活を記念する日曜礼拝が、世界中で行なわれています。果たして、イエス様の復活は、全く根拠の無いものなのでしょうか？

先程読んだ、I コリント書のみことばからは、当時の(ガラテヤ諸教会やコリントの)教会が、『週の初めの日』、すなわち、日曜日に集まって、礼拝を捧げていた！ということが前提として、その時に、献金を集めておきなさい！ということが命じられてありました。いえ、このみことばだけでなく…、使徒の働きを見れば、イエス様の復活後、比較的すぐに、クリスチャンたちは日曜日に集まって、パンを裂くなどして、イエス様の復活を覚えていたことが分かります。でも一体、どうして、当時のクリスチャンたちは土曜日ではなく…、日曜日に集まるようになっていったのでしょうか？…イエス・キリストの復活以外に、何か、明確な理由を説明できるのでしょうか！…それが、聖書の教えであります。

Ⅲ・このことで、人生を変えられた者たちが大勢存在する！

最後にもう一つ見ていきたいことは、イエス様の十字架と復活とが、実に、多くの者たちの“人生を変えてきた！”という現実であります。そういったことを、私たちは、聖書のみことばを通して、また、現代にあっても、多数確認することができます。

●アメリカのキリスト教弁証家、ジョシュ・マクドウェル に起こった変化

まず、聖書が教えてくれている人物ですが、それに関しては、私たち、改めて言うまでもなく、もう既に皆さんをご存知だと思います。まずは、イエス様の弟子たちがそうですし…、初代教会のクリスチャンたちも…、彼らは皆、イエス様の復活を通して、大きく人生を変えられ…、そのために生き…、また、そのために死んでいきました。そうですね？

それとは別に、今日、ある人物を紹介したいのは、「ジョシュ・マクドウェル(Josh McDowell)」というアメリカ人の弁証家です。彼は、1939 年生まれで…、日本で言うと、昭和 14 年の生まれになります。彼の父親は、アルコールや虐待などの問題を抱えていたそうです。そんな環境で育った、ジョシュ・マクドウェルでしたが、彼は大学までノンクリスチャンと言うか、所謂、不可知論¹者であったそうです。しかし、彼は、ある時に、「イエス・キリストの復活など有り得ない！」ということ、科学的 & 論理的に証明しようとして、自分で独自に、聖書やキリスト教に関する研究を始めたそうです。しかし、彼が調べれば調べるほど、聖書の記事が、彼には信憑性のあるもののように思えてきました。そうして、彼は、とうとう、クリスチャンになったのです。

現在までに、このジョシュ・マクドウェルは、共同執筆も合わせると、145 冊ほどの信仰書を書いてきたのだそうです。彼の執筆した 145 冊の著作は、100 を超える言語に翻訳されて、世界中で読まれています。彼の代表作？とも言い得る、「神が大工か」(原題: More Than A Carpenter)という作品は、総発行部数が 1500 万冊にもなります。彼の著作の幾らかは、「キリスト教弁証論」とも言われるもので、彼自身が研究してきた成果であるとも言えます。彼は、所謂、現代における、聖書の正しさを立証するような学問の第一人者と言って良いと思います。…でも、このジョシュ・マクドウェルに限らず、そういった人たちが、たくさん居られますよね？

¹ 宗教的不可知論のひとつのタイプとしては「神は「いる」とも、「いない」とも言えないのだ」とする中立的不可知論がある。他に、政治的な意図から無神論者であると言明するのがはばかれる場合に用いられる表明が入れられることもあるが、これは政治的な運動であるマルクス・レーニン主義者や科学原理主義者などの無神論者からは“相対主義的だ”などと批判されることがあった。(ウィキペディアより)

●その他、多くのクリスチャン たちの証し

こんな言い方をするのも、恐縮ですが…、かく言う私だって、初めて、教会に足を踏み入れた時には、無神論者でした。「天地万物を創造された神様なんて、居るわけがない！もし、万が一、神様が居たとしても、私たちに何もしてくれないし…、自分には関係ない！」と考えていました…。しかし、そんな私も、教会に来て…、そうして、聖書の教えを聴いて…、カルチャーショックを受けました。まさか、この現代で、進化論ではなく…、神様によってすべてのものが創造されたとか、あるいは、イエス・キリストの復活を信じている人たちがいるとか、夢にも思っていませんでした。

でも、そこから、私なりの聖書研究が始まりました…。当時は、インターネットも無かったので、色々大変でしたが、私なりに、聖書のことを調べて…、少し批判的に、いろんな書物を開いたり…、私自身、疑いの気持ちを持ちながら、教会に来て、聖書のメッセージを聴いたりしていました。しかし、段々と聴いているうちに、自分の考えの方が浅はかだ…、むしろ、自分自身の方が偏見で…、公平ではない偏った見方をしているのではないかと、思うようになってきました。…ま、詳しいことは、この教会が発行している、「Good News」をご覧ください。…でも、私が言いたいことは、私だって、私なりにと言うか…、私自身ができる範囲で、真理というものを探究した結果、イエス様の復活は事実である！という結論に行き着いた！ということです。

でも、それって、特別なことなのでしょうか？正直言って、聖書の内容や教会での教えに疑問を持って、それを自分自身で検証してみた！っていうのは、ジョシュ・マクドウェルや私だけに限定されることなく…、ほとんど、すべてのクリスチャンたちが通ってきた道じゃないですか！そうですね？クリスチャンの皆さん？ここにおられるクリスチャンの皆さんも、クリスチャンホームの出身であろうとなかろうと…、ある時に、聖書の内容や、あるいはまた、教会で教えられている内容について、自分なりに検証して…、そうして、納得して…、いえ、確信を持って…、なおかつ、自発的に…、ここに、こうやって集まってくださっているはずであります！そうですね？

そういう意味におきまして、イエス様の復活は、2000 年前の者たちのことを変えただけではありません。イエス・キリストの復活は、2000 年近く経った現代でも、多くの者たちの人生を大きく変えて…、大きな影響を与えています。例えば、教会の皆さんが、そのことの生き証人じゃないですか！…果たして、そういったことは皆、私たちの勝手な思い込みか…、あるいは、何かによって騙されているだけなのでしょうか？もしも、真の神様が、この聖書を与えてくださったのではないなら…、この聖書は、2000 年以上前の人間の知恵によって書き記されたこととなります。しかし、2000 年以上も前の人間たちによって書かれただけの書物が、今なお、私たちに様々なことを教え…、私たちのことを大きく変えることが、本当にできるのでしょうか？

私は今、こんな風に考えています…。もし、誰かが、本当に聞く耳をもって…、この聖書のみことばに耳を傾けてくださったら(それは、たった1度や2度、教会に来てメッセージを聞くというのではなく、納得いくまで教会に通いつつ、真剣にメッセージを聴いてくださったとしたら)、もっと多くの人たちが…、かなりの確率で、イエス様の復活を信じ…、私たちと同じ信仰を持ってくださるのではないかと…。しかし、現実には、ほんの数回、教会に来てみて、「やっぱり、自分には受け入れられない…。大して、興味深い話をしてくれていない…。」と感じて、教会に来るのを止めてしまわれるパターンがかなり多いようです。

でも、イエス様の復活が本当にあった、事実なのかどうかということは、私たちの人生を大きく変え…、その人の永遠さをも大きく変えてしまうほどの出来事あります。どうぞ、短絡的に、答えを出してしまうのではなく…、続けて、教会に通って、聖書の教えをしっかりと吟味して下さって、本当に信じるに値するものなのかどうか？ということ、あなた自身で、判断していただきたいと思ひます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。

<参考資料>



(写真①: ゴードンのカルバリ)



(写真②: 園の墓の外部)



(写真③: 園の墓の内部)